2022 年 4 月 7 日
上海産業情報センター
淺井　一志

コロナ禍での中国入国に関する報告
一般調査報告書

愛知県に転職して 7 年が経過しようとしている。その間、第 4 次産業革命と呼ばれるデジタル産業の急速な発展には目を見張るものがあり、いわゆる「日経平均」を構成する日本企業主要 225 社の株価総額を GAFA（Google、Amazon、Facebook、Apple）がたった 4 社で上回ったニュースや、BAT（Baidu、Alibaba、Tencent）と呼ばれる中国の巨大 IT 企業が国際ビジネスにおいて GAFA に負けない存在感を放つなど、この 7 年の間に、国際ビジネスをめぐる産業構造、主要企業の顔ぶれは大きく変容した。

こうした世界情勢に詳しい人々の多くが、世界の主要国に比べて日本がこのデジタル産業革命に乗り遅れていること、国内市場の高齢化や人口減少に伴う市場規模の縮小など、国内市場のみで企業が生き残りを図ることが如何に困難であるかを声高に叫び、海外市場や、外国企業との連携に活路を見出すべし、といった意見が多く聞かれている。特に、愛知県は自動車産業を中心に、「ものづくり産業」で栄えている地域である。このデジタル産業革命が自動車産業を含むこれまで愛知県が強みとしてきた製造業全般に与える影響は計り知れず、愛知県行政を司る機関の国際ビジネス担当官の末端としても、何とか企業に海外展開によるビジネスチャンスの拡大や、優れた外国企業を愛知県企業に紹介するなどの支援を行いたい。特に、中国には他地域と比較して最大数の愛知県企業が進出（https://www.aibsc.jp/support/961/）していることもあり、既存のネットワークを活用した企業連携も進みやすい。さらに、世界規模でこのデジタル産業革命を俯瞰した場合、リードするのは米国と中国である。幸い、愛知県は中国に拠点を有している。

前職での米国赴任の経験を含め、これまでの知見を総動員すれば、微力でも、きっと愛知県企業が未来に活路を見出す何らかのお手伝いができる。そう確信して、中国行きを希望した。コロナ禍で作業が煩雑化して時間がかかったものの、必要な書類は整えたため、あとは中国に入りさえすれば、何とかなる――その時、私は、まさか「中国入国」そのものがこんなに困難だとは、思ってもいなかった。

2022 年 4 月 7 日時点で、中国入国には、以下の作業が必要となる。

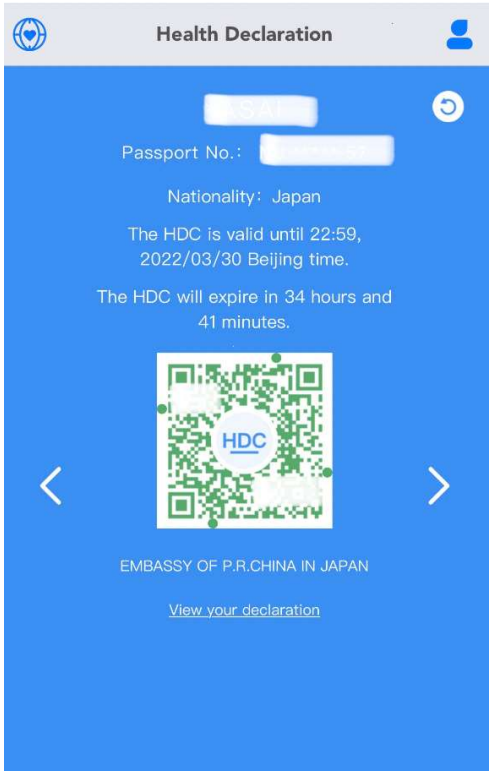
① パスポート・就労許可・招聘状・ビザ等の手続き・書類の準備
② 渡航日 2 週間前からの体温測定・記録提出
③ 渡航日 1 週間前の PCR 検査・陰性証明書の取得
④ 渡航日 3 日前から前日までの PCR 検査（24 時間以上の間隔を空けて 2 回、同一中国公館の所管地域内の異なる医療機関で）・陰性証明書の取得
⑤ 渡航時間 24 時間前から渡航前日 20 時までの「健康宣言コード（Health Declaration Code）」のオンライン上での取得・申請・審査通過（中国に向け日本を出国するために必要）

愛知県
Copyright © 2022, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

⑥ 中国到着時刻の 24 時間前から日本出発時間までの「中国税関出入国健康申告」のオンライン上での取得・申請・審査通過（中国入国時に必要。機内での感染者発生時の濃厚接触者特定・追跡のため、座席番号まで正確に入力する）

⑦ 中国到着空港での PCR 検査、航空機内で手書きで記入する 3 種類の書類の提出・審査通過

これら手続きの 1 つが欠けただけでも、確実に中国への道は閉ざされる。特に、デジタル化の進展に伴い⑤⑥の手続きはスマートフォンを持ち、ある程度使いこなせることが必須要件で、タイムリミットもあるため、非常に緊張を強いられた。



緑に変わらない限り飛行機に乗れない

座席番号まで正確な入力が求められる

何とか全ての入力作業・修正作業などを時間内に終え、念のために前日空港入りして航空会社係員に確認した通り、フライト予定時刻の 2 時間前、さらに余裕を見て 2 時間半前にチェックインカウンターに到着した。

そこで私の目の飛び込んできたのは、チェックインカウンター周辺でつづら折りとなっていた搭乗客の行列の最後尾が、チェックインカウンターエリアを大きく超えて搭乗手続きエリア全体をほぼ取り囲むという光景であった。瞬時に「これは間に合うのだろうか」という不安がよぎった。

結局、75 分後、私たち家族はカウンターにてチェックイン手続きを開始した。デジタル化が進んだ現在、当然のことながら航空会社 WEB サイト上でのオンライン手続きが可能であり、それらの作業もすべて終わっている。ところが、中国渡航に関しては、上述のデジタル申請書類の確認作業があり、かつその作業は人が行う。

愛知県
Copyright © 2022, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

中国便は長蛇の行列

行列の長さに手を焼いたが、何とか全ての手続きが完了した。あとは、通常通りの日本出国手続きである。日本出国に関しては人気のない出国エリアで全く行列もなく、スムーズに手続きを終えることができた。飛行機への搭乗も、特に問題なく行われた。乗客はほぼ全員がビジネス客かその帯同家族、帰国する中国人などで、百数十名とみられる乗客のうち 10 名ほどの乗客が、所属企業の規定であろう防護服を着用して搭乗する姿が見られた。機内では、防護服に身を包んだキャビン・クルーが通常通りのサービスを提供していた。機内では、中国入国に際して手書きで記入する書類が 3 種類配布されたが、内容はパスポート番号や最終目的地、ビザ番号など、これまでオンラインで記入した内容と同一のため、特段問題なく書き終え、フライトは順調に到着空港に着陸した。

到着後の流れ

① 客席最前列から数列ごとに、グループ単位で降機
② 中国税関出入国健康申告および各種入国前に取得した書類の提示・確認（※一番時間がかかる）
③ ＰＣＲ検査
④ 入国審査（パスポート、ビザ、顔写真撮影、指紋採取など）
⑤ 機内持ち込み手荷物のセキュリティ・チェック
⑥ 預入荷物の受け取り、税関申告
⑦ パスポートチェック、セキュリティ・エリア外でバス待機

搭乗機が空港に到着した後は、最前列から順に、数列ごとの小集団に分かれての降機となった。エコノミークラス最前列に座っていた私たちは、搭乗機が停止してから 49 分後に降機が許可された。

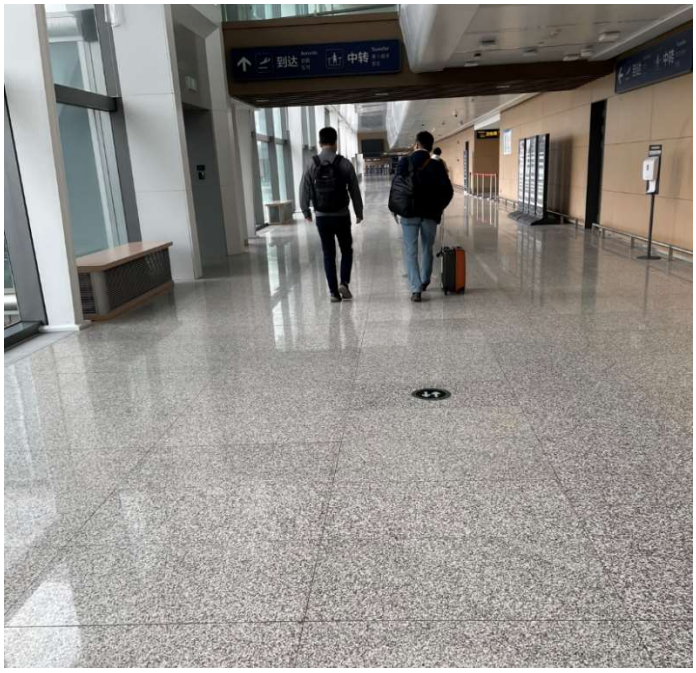
愛知県
Copyright © 2022, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

QR コードが読み取れなければ入国不可

その後は、パスポートとこれまで提示した健康コードなどの画像（QR コード）をスマートフォン上で提示し、係官がそれを機械的に読み取る作業などが行われた。1 人 1 人の確認書類の数が多いため、時間がかかるが、こうした状況は既に多くの渡航者がブログや動画サイトなどにアップロードしていたため、大きくストレスを感じることはなかった。ただ係官とのコミュニケーションはほぼ中国語のみで、英語含め外国語はほぼ通じないと想定しておいた方が良いと思われる。最後は身振り手振りで何とか審査を通過した。

次いで、ＰＣＲ検査を受けた。多くの経験者がここでの検査が最も痛みを感じるとの情報を発信していたので身構えていた。家族は感染リスク軽減のためということで大人 1 人・子供 1 人に分けられ、それぞれ別の陰圧室にて受検した。その際の痛みは担当官によって大きく異なるようで、私は特に痛みを感じなかったが、別の担当官となった家族はそれなりに感じたようである。1 つ 1 つの作業には時間がかかったものの、機内での待ち時間が長かった半面、降機後に行列で長く並ぶ、ということはあまりなかった。

愛知県
Copyright © 2022, Aichi Prefecture.
All rights reserved.



空港内は閑散としている

ＰＣＲ検査後は、荷物をターンテーブルで受け取り、税関申告所を通過するまではコロナ前と変わらなかった。通常であればここでセキュリティ・エリアを抜け、空港を後にするところだが、現状下では、セキュリティ・エリア出口でパスポートなどの書類を提示し、その場でグループ分けされてバスを待つこととなる。事前の情報では、ここで 2－3 時間待つ、ということも聞いていたのだが、空港側の対応が改善されたのか、私たちの場合は 20 分待った時点でバスに乗り込むことができた。

バスに乗り込んでから 13 分後にバスは出発。この時点で中国到着からちょうど 3 時間が経過していたが、日本出国までの状況とは異なり、現場での目立ったトラブルなく一連の手続きを終えられたことで、むしろスムーズさを感じた。コロナ禍で長くこうした状況が続いた結果、空港側の受け入れ態勢も改善されていると思われる。

以上が、中国渡航に向けた直前の準備および実際の日本出国・中国入国に関する経験談です。コロナ禍で中国だけでなく、国際的な人の流れはいまだに大きく制限されたままですが、冒頭で述べた通り、日本企業、とりわけ愛知県企業にとって海外展開や外国企業とビジネスを展開することは、生き残りに向けた 1 つの軸であると考えられます。困難な状況下でも、積極的に国際ビジネス展開を試みる愛知県企業の皆さんを、支援してまいります。

本資料は、上海産業情報センターが、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。

Copyright © 2022, Aichi Prefecture.
All rights reserved.